

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス保毒状況と防除対策(技術情報第11号)
について(送付)

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス(以下、CCYVとする)保毒状況とウリ科野菜の退緑黄化病に対する防除対策について取りまとめましたので、業務に御活用下さい。

記

野外におけるタバココナジラミの誘殺数は平年に比べてやや少ないが、CCYV保毒虫率は平年並である。生育初期にCCYVに感染すると収量・品質への影響が大きくなるため、ほ場内にタバココナジラミを「入れない」対策とともに、初期防除を徹底する。

ウリ科野菜栽培主要3地域(熊本、鹿本、菊池)で、夏秋期から栽培を開始するウリ科野菜の退緑黄化病の発生リスクを判断するため、それぞれの地域の野外に黄色粘着板を1か所ずつ設置し、タバココナジラミの誘殺数およびCCYVの保毒虫率を調査した。

1 調査結果

- (1) 8月上旬～下旬にかけて黄色粘着板(10×10cm)に誘殺されたタバココナジラミは、0.6頭/日/枚と、平年1.3頭/日/枚(過去5年の平均値、以下同様)と比較するとやや少なかった(表1)。
- (2) 8月上旬～下旬にかけて黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミのCCYV保毒虫率は27.3%(平年28.3%)と平年並であった(表1、図1)。ただし、設置地点によっては保毒虫率に差が見られ、最も高い地点は過去10年の中で2番目に高い水準にある(図1)。
- (3) 退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数は0.2頭/日/枚(平年0.4頭/日/枚)と、平年比やや少であった(表1)。
- (4) 福岡管区气象台が9月5日に発表した九州北部地方1ヶ月予報によると、気温は平年より高く推移すると予想されており、タバココナジラミの活動に好適な条件が続くと考えられる。

2 防除対策

退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数は平年比やや少である。しかし、生育初期にCCYVに感染すると、品質の低下や収量の減少等の被害が大きくなるため、ほ場にタバココナジラミを「入れない」対策とともに初期防除の徹底が重要である。

また、今後タバココナジラミの活動に好適な気象条件が続いた場合、野外のタバココナジラミが増殖し、ハウス内へのタバココナジラミの飛び込み頻度が高まることが想定される。

以上の点に留意して、以下のような防除対策を行う。

定植前のは場

- (1) これから定植するほ場では、タバココナジラミを栽培ほ場に「入れない」対策を徹底する。施設のサイド開口部に目合い0.4mm防虫ネット、谷換気部に目合い1mm以下の防虫ネットを被覆する。すでに被覆しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無いか点検し、必要に応じて補修する。
- (2) 育苗期後半に使用できる薬剤を定植2～3日前に処理する。
- (3) 育苗ハウスから苗を運び出す際には、移動中にタバココナジラミが寄生しないよう、運搬車等の荷台を防虫ネットや幌等で覆う。

栽培中のは場

- (1) タバココナジラミを施設内で「増やさない」対策を徹底する。現在栽培中のは場では、栽培終了まで、タバココナジラミの防除を継続して行う。
- (2) メロンにおいては、育苗期後半の粒剤処理に加えて、定植7日後の調合油乳剤散布、交配前の調合油乳剤と殺虫剤の混用散布を行う防除体系が有効である。薬害防止のため、高温時や薬液が乾きにくい環境での散布を避ける。他剤と混用する際は試しがけするなどして事前に薬害の有無を確認する（[「農業の新しい技術 No747（令和5年6月）メロン退緑黄化病は、調合油乳剤を利用した防除体系で防ぐ」](#)を参照）。
- (3) タバココナジラミを施設外に「出さない」対策を徹底する。栽培終了後は直ちに密閉処理を行い、ほ場内のタバココナジラミを死滅させる。露地栽培などの密閉できないほ場では、成虫に効果の高い薬剤で防除したうえで収穫残さを早急に片付ける。

共通

- (1) 施設内の発病株や周辺の野良生えは、重要な伝染源となるため適宜除去する。
- (2) ウリ科野菜の周年栽培地帯におけるメロン退緑黄化病発生リスクは、5月から12月まで高い水準で推移する（[「農業研究成果情報 No. 597\(平成25年5月\)ウリ類周年栽培地帯でのメロン退緑黄化病発生リスクの季節変動」](#)を参照)ため、今後も防除を徹底する。
- (3) 薬剤は効果があるものをローテーションで使用する（[令和3年3月10日付技術情報第17号「タバココナジラミバイオタイプQ成虫の薬剤感受性検定の結果」](#)を参照）。なお、アセチル化グリセリド乳剤（商品名：ベミデタッチ）は、登録変更により「メロン」への適用がなくなったため使用しない。

表1 各調査年におけるタバココナジラミの誘殺数、保毒虫率、保毒虫数

調査年	R1	R2	R3	R4	R5	R6	平年
誘殺数(頭/日/枚)	1.0	1.5	2.2	1.2	0.6	0.6	1.3
保毒虫率(%)	30.3	41.3	24.7	29.4	15.7	27.3	28.3
保毒虫数(頭/日/枚)	0.3	0.7	0.6	0.5	0.1	0.2	0.4

- ※1 表中の数値は3地点（熊本、鹿本、菊池）の平均値。
- ※2 平年値は過去5年の平均。
- ※3 誘殺数は、黄色粘着板を1地点あたり5枚（例年誘殺数が少ない地点は1度に10枚）、14～31日間設置して、1枚あたり1日の誘殺数を算出。
- ※4 保毒虫率は、黄色粘着板に誘殺されたコナジラミをRT-PCRにより検査し、保毒虫数／検定数により算出。検定数は1地域あたり原則50頭（ただし誘殺数が少ない場合は50頭を下回ることがある）。
- ※5 保毒虫数は、誘殺数×保毒虫率により算出。

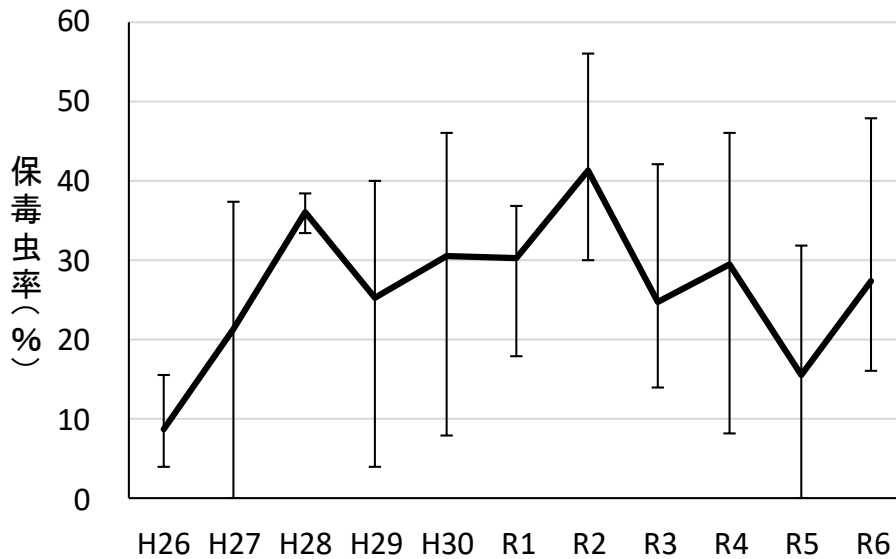


図1 黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミ成虫のC C Y V保毒虫率の推移
 グラフは3地点（熊本、鹿本、菊池）の平均値。
 エラーバーは各年の3地点中の最大値、最小値を示す。

熊本県病害虫防除所
 （熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）
 担当：肥後、福岡 TEL：096-248-6490